

- ◆部 長 室田正子（諏訪小） ◆副部長 廣川美知代（黒川小）
◆会員数 小学校 33 名・中学校 13 名・特別支援学校 6 名 計 52 名

1 研究活動の方針

◎「造形の楽しさ 豊かな自分 世界は広がる」

この主題を設定して3年目である。主体的に創造する造形活動の楽しさを十分に味わう中で豊かな自己を形成し、人や環境とかかわる中で自己の世界が広がっていくことを実感できる造形活動を探ってきた。今年度は研究課題に沿った部員相互の実践情報交換と、教師自身が楽しみながら多様な技法を学ぶ機会や鑑賞力の育成の充実を図る研修の場を大切にしたい。

2 実施事項

- (1) 会員の指導力の向上を図る研修の実施
- (2) 地域の美術館の有効な活用法を探るなど、学校と地域を結ぶ教育活動の接点を探る企画・運営

3 研修の内容

(1) 主として「造形遊び」を中心とした実践のレポート研修会

①期日：11月18日（金）14:30～15:00 ②会場：リージョンプラザ上越 ③参加者：49名

・実践レポートを小グループで発表し合い、熱い議論を交し合った。互いに刺激を受けた研修となった。

(2) 美術教育講座－I（実技研修会）

①期日：11月18日（金）15:00～16:40 ②会場：リージョンプラザ上越

③参加者：49名

④講師：小関信也先生 上越美術連盟理事

⑤内容：「様々な素材を使った絵画技法」

・児童生徒が普段使っている用具用材で実際に描くことで、その効果を実感することを大切にして、教師も描く時間を楽しんで追究した。児童生徒になったつもりで、表現の基礎から発展を志向し、技法、構成、イメージ化を通して感情移入する時間を体感した。参加した教員は、鉛筆、墨滴、水彩、パステル、クレパス等を使い、楽しそうに作品づくりに没頭し、「もっと描き続けたい」とのつぶやきがあちこちから聞こえてきた。萱ペンの描き心地の良さにも感動した。技法指導が主目的であったが、自己と対峙する貴重な時間を共有することができ、有意義な研修となった。滋味あふれる講師の姿から、図工・美術教育とそれが育てる人間性の豊かさに気付かされる研修であった。

(3) 美術教育講座－II（鑑賞研修会）～「小林古経の世界」を探る・古経美術館を訪ねて～

①期日：11月29日（火）15:00～16:45 ②会場：小林古経記念美術館、古経邸

③講師：小林古経記念美術館 館長 中嶋 浩 様

④内容：古経美術館の特色と教育現場でのその活用について

・古経に見る日本画の特色 ・古経の作品から生まれた古経邸・アトリエの芸術性について

⑤参加者：教員、元教員…21名

・古経作品の線の美しさに触れ、古経芸術を生かしながら機能美を求めた古経邸を鑑賞した。古経の姿を追い求める中嶋館長の姿に感動を覚えた鑑賞教室だった。気軽に貸し出しも行えるデジタルアートの活用など、新しい美術館利用ができることを知り、有意義であった。

(4) 県立近代美術館巡回ミュージアム参加

①期日：9月28日（水） ②会場：八千浦中学校 ③講師：美術館学芸員

④内容：県立近代美術館所蔵の作品10点を、八千浦中学校生徒や地域の方や他校教師が学芸員の解説付きで鑑賞した。本物を身近に鑑賞できることがこんなに心豊かになるのかと思うような時間を過ごした。今後、このような形で美術館を開くことも不可能ではないと知り、本物教育も身近に感じられるようになった。